

国立ハンセン病資料館

ノルウェー・ベルゲン市は、19世紀後半、らい菌を発見したアルマウェル・ハンセン医師が活躍した地で、ノルウェーは疫学を基礎にし、20世紀前半にはハンセン病医学、医療を国際的にリードしました。

本シンポジウムでは、ベルゲン市所在の研究機関においてハンセン病医療政策の歴史研究を行っている3名の研究者をお招きし、現地で収集・保存されてきたハンセン病史資料の価値や、そこから学ぶべきこと等について特別講演をしていただきます。またパネルディスカッションでは、ノルウェー人研究者と、日本におけるハンセン病史資料保存機関の草分的存在である、高松宮記念ハンセン病資料館(現国立ハンセン病資料館)の創設・運営に関係してきた元患者(現資料館運営委員)が、なぜハンセン病史資料は保存されなければならないか、という観点から議論を行います。

ハンセン病史資料の収集・保存の先達であるノルウェーのあり方に学び、国立ハンセン病資料館の存在意義、その将来を展望した際の課題について明確にする場としたいと考えています。

第一部 ノルウェー特別講演

テーマ

ノルウェーにおける ハンセン病史資料の保存

シグード サンドモ (Sigurd Sandmo : ハンセン病博物館学芸員)
「ハンセン病研究の国際動向とノルウェーハンセン病史の資料価値」

アーネ スキヴェンス (Arne Skivens : ベルゲン市アーカイブス所長)
「医学ジャーナルから学ぶもの
ーベルゲン市立公文書館におけるハンセン病史資料保存ー」

ユングベ ネルレボ (Yngve Nedrebø : 在ベルゲン国立アーカイブス所長)
「ハンセン病の歴史記録から学ぶもの
ーノルウェー国立公文書館におけるハンセン病史資料保存」

第二部 パネルディスカッション

テーマ

なぜハンセン病の歴史記録は 保存されなければならないのか

シグード サンドモ (ハンセン病博物館学芸員)

アーネ スキヴェンス (ベルゲン市アーカイブス所長)

ユングベ ネルレボ (在ベルゲン国立アーカイブス所長)

平沢保治 (ハンセン病元患者・国立ハンセン病資料館運営委員)

佐川 修 (ハンセン病元患者・国立ハンセン病資料館運営委員)

(司会) 黒尾和久 (国立ハンセン病資料館学芸課長)

日時：2010年1月21日(木) 13:00～16:30

会場：国立ハンセン病資料館 映像ホール

主催：国立ハンセン病資料館・金沢大学

後援：全国ハンセン病療養所入所者協議会 ノルウェー王国大使館 多磨全生園入所者自治会 日本財団 笹川記念保健協力財団 他

参加：無料・先着150名・申込不要・逐時通訳付

国際ハンセン病政策シンポジウム(第二回) ハンセン病医療政策と 資料保存

日本とノルウェー

問

国立ハンセン病資料館：TEL 042-396-2909 FAX 042-396-2981

詳細はホームページをご覧ください。URL : <http://www.hansen-dis.jp/>

【スケジュール】

13:00 開会挨拶 成田 稔(国立ハンセン病資料館長)

13:10 第一部 特別講演

「ノルウェーにおける ハンセン病史料の保存」

シグード サンドモ

(Sigurd Sandmo : ハンセン病博物館学芸員)

「ハンセン病研究の国際動向と
ノルウェーハンセン病史の資料価値」

アーネ スキヴェンス

(Arne Skivens:ベルゲン市アーカイブス所長)

「医学ジャーナルから学ぶものーベルゲン市立
公文書館におけるハンセン病史資料保存ー」

ユングベ ネルレボ

(Yngve Nedrebø : 在ベルゲン国立アーカイブス所長)

「ハンセン病の歴史記録から学ぶもの -ノルウェー
国立公文書館におけるハンセン病史資料保存」

15:10 休憩

15:20 第二部 パネルディスカッション

「なぜハンセン病の歴史記録は保存されなければならないのか」

シグード サンドモ

(Sigurd Sandmo : ハンセン病博物館学芸員)

アーネ スキヴェンス

(Arne Skivens : ベルゲン市アーカイブス所長)

ユングベ ネルレボ

(Yngve Nedrebø: 在ベルゲン国立アーカイブス所長)

平沢保治

(ハンセン病元患者・国立ハンセン病資料館運営委員)

佐川 修

(ハンセン病元患者・国立ハンセン病資料館運営委員)

(司会) 黒尾和久 (国立ハンセン病資料館学芸課長)

16:25 閉会挨拶 井上英夫(金沢大学教授)

【特別講演およびノルウェー人パネラー紹介】

本シンポジウムで招へいするノルウェー人研究者は、「レプロロジー・アーカイブス オブ ベルゲン」(The Leprosy Archives of Bergen)のメンバーである。ベルゲン市には、数世紀にわたるハンセン病政策関連資料が豊富に保存されており、ユネスコ「世界の記憶」にも登録されている(2001年)。この豊富な資料を一元的に管理し、現在でも疫学的視点から政策研究を続けているのが「レプロロジー・アーカイブス オブ ベルゲン」である。研究成果の一部は“Lepra (Selja Forlag, 2006年)”として公表されている。今回招へいした3人はこの中心メンバーである。

1 Yngve Nedrebø(在ベルゲン国立アーカイブス所長)

1954年生まれ、国立アーカイブスベルゲン支部所長。
疫学的視点からハンセン病政策における
患者の人権等を研究している。

2 Sigurd Sandmo (ハンセン病博物館学芸員)

1971年生まれ、ベルゲン市におけるハンセン病博物館学芸員。
IDEAノルウェー代表。歴史学的観点からノルウェーの
ハンセン病政策の特徴等を研究している。

3 Arne Skivens (ベルゲン市アーカイブス所長)

1947年生まれ、ベルゲン市アーカイブス所長。
資料保存の専門家として、医学、医療文書の
歴史的変遷を研究している。

通訳 Åge Vallestad (オーゲ ヴァレストッド：ベルゲン市職員)
1962年生まれ、建築家、ベルゲン市建築基準課勤務。

【会場交通案内】

- 西武池袋線清瀬駅南口から、久米川駅行きまたは所沢駅東口行きバスで約10分
- 西武新宿線久米川駅南口から、清瀬駅南口行きバスで約20分
※いづれもバス停留所「ハンセン病資料館」で下車すぐ
- JR新秋津駅から徒歩約20分

